

令和2年度水戸市研究指定校実施報告書

笠原中学校区 施設分離型小中一貫教育に関する研究

学校名 笠原中学校 寿小学校 笠原小学校

目指す児童生徒像 他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒

研究主題 他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒の育成

－ 各校・各学級におけるリーダーの育成を通して －

1 主題設定の理由

近年、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきている。このような時代を生き抜く児童生徒は、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていかなければならない。

このような「生きる力」の育成のためには、同じ地域で過ごす児童生徒の小中学校9年間の学びと育ちを見通し、地域のよさや目指す児童生徒の姿を小中の教員・保護者・地域が共有しながら、つながりをもって見守っていくことが必要である。

笠原中学校区は、笠原小学校（797名）と寿小学校（635名）の児童のほとんどが笠原中学校（641名）に進学する2小1中の学区である。5年前から「小中合同夏季研修会」を開催し、教科の研修や児童生徒情報交換を行うなど、小中連携を行い、小中一貫教育の基盤をつくってきた。しかし、施設分離型であり、教職員がいつでも顔の見える関係であるとはいえない。平成30年度児童・生徒の実態調査から、笠原中学校区の課題は、自己肯定感の高揚と学力の向上であると考えた。温かい人間関係を基盤として、主体的に学び、確かな学力を付け、自信をもって生き抜く児童生徒の育成が保護者や地域の願いである。小・中学校それぞれが、地域の特性を生かし育ててきた学校風土を基に、学びが分断されることなく、児童生徒を育成していく小中一貫教育の必要性を感じている。

平成30年度から、水戸市教育委員会研究指定校として、水戸市小中一貫教育「まごころプラン」に基づき、施設分離型小中一貫教育を進めてきた。1年次は、笠原中学校区の全職員が、顔の見える関係をつくり、目指す児童生徒の姿を共有することを大切にしてきた。2年次には、学校や地域とのつながりを大切にしながら、計画的・系統的に進めていく小中一貫教育を目指し、各校のリーダーを育成してきた。そして、3年次、9年間の学びに系統性をもたせ、各校のリーダーを核として、各学級において発達段階に応じたリーダーの育成を目指してきた。この3年間の取組の積み重ねを通して、他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒が育成できるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒を育成するための小中一貫教育の具体的な方策を計画・実践・検討する。具体的なプロジェクトは次の四つである。

- (1) 小中合同で授業改善や出前授業等を行い、児童生徒の主体的な学びを支え、9年間を見通して学力の向上を図る。
(学習プロジェクト)
- (2) 児童生徒の手による小中協働の活動を通して、9年間を見通して小中のリーダーを育成するとともに、規範意識や自己肯定感を育み、温かい人間関係づくりのできる児童生徒を育てる。
(心プロジェクト)

- (3) 小小・小中の交流を通して、9年間を見通して体力の向上を目指し、目標をもってあきらめずに努力する児童生徒を育てる。 (体プロジェクト)
- (4) 教職員の顔の見える関係をつくり、合同研修や相互授業参観、情報発信・共有を行い、9年間を見通して児童生徒の育成を図っていく。 (教職員協働プロジェクト)

3 具体的な取組内容

- (1) 各プロジェクトの取組
- ① 学習プロジェクト

○ 学力の向上
・学び合いを通して、主体的に学ぶ児童生徒の育成

【3年次の取組】

学習プロジェクトでは、平成30年度から各校の課題の把握と共有をし、学習指導の統一が図られる共通の取組について話し合ってきた。3年目になる令和2年度には、教科ごとに3年間の課題を共有し、その達成に向けて小中9年間を通して一貫性のある学習ができるように、「9年間で育成したい力」を身に付けられることを目標にして系統表を作成した。小中の教員で達成できるための手立てを検討する時間を設けたことで、小学校6年間で学ばせなければならないことや、中学校の学習に役立つことなどの情報を共有することができ、日常的・継続的に教科指導に活かすことができた。

資料1 算数、視点をもたせた振り返り

- ア 国語の授業における辞書の活用
イ 語彙ノートの活用について
ウ 視点をもたせた振り返りの実施 (資料1)
エ ミニテスト、ワークシートの共有
オ 中学校美術教員の小学校出前授業



- ② 心プロジェクト

○ 温かい人間関係づくり
・主体的に課題解決に取り組む児童生徒の育成

【3年次の取組】

- ア リーダーの育成 (Web会議の実施)

これまで、笠原中学校区は、施設分離型であるため、リーダーが会議を行う際の移動の手段や時間・費用の調整など、会議の持ち方については、課題があった。しかし、今年度は、感染症予防のため、「Meet」や「Zoom」を利用したWeb会議を実施した。2年次までの課題であった、移動時間や移動手段などが解消され、話合いの回数も増え児童生徒は、始めは戸惑っていたが、回数を重ねるごとに話合いにも慣れ、進んで質問する姿が見られた。今年度は、校内で

の小さなリーダーを育成していくために、校内でも話し合いを行い、互いの学校で実施している取組を報告し合い、よさを認め合いながら、自校の活動に生かせるようにしていった。(資料2)

資料2 Web会議を行っている様子(左から笠原中, 笠原小, 寿小)



イ キャリアパスポートを用いた指導

今年度から、「いばらきキャリアパスポート」の資料の蓄積が始まり、笠原中学校区では、3校で同じ形式のキャリアパスポートを用いて、学年ブロックごとに色分けをし、9年間の自分の成長の記録をまとめ、引き継ぐことができるようにした。(資料3)

資料3 キャリアパスポート



③ 体プロジェクト

- 体力の向上
 - ・目標をもって運動に主体的に取り組む児童生徒の育成

【3年次の取組】

ア 体力向上トレーニングの共同開発・実施 (資料4)

イ 体力テストの分析・活用

- 自己分析ワークシートの活用
- 小中一貫分析シートの活用
- 課題克服トレーニングの実施

資料4 体力向上トレーニング



④ 教職員協働プロジェクト

- 指導力の向上
 - ・小中の連続性を見通した児童生徒の育成

【3年次の取組】

ア 児童・生徒カルテの統合 (資料5)

イ 「健康タイム」の実施

ウ 学校事務

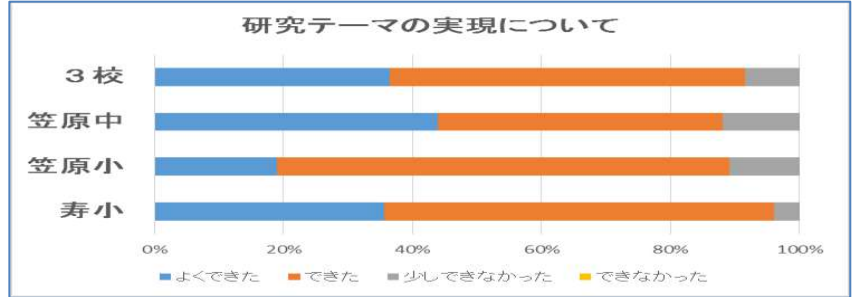
資料5 児童・生徒カルテの統合

児童・生徒カルテ		記録の連携・共有の状況				備考
年度	児童・生徒数	土曜指導	遠足実施	身体上	福祉連携	
2021						
2022						

4 研究の成果

平成 30 年度から 3 年間、水戸市教育委員会研究指定を受け、研究主題「他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒の育成」のもと、笠原中学校区施設分離型小中一貫教育の関する研究を行ってきた。3 年次は、コロナ

資料 6 教職員アンケート「研究テーマの実現について」



ウィルス感染症拡大防止のために、予定していた活動ができなかったが、Webでのリーダー会議を実施することができたため、時間や移動にかかる経費を節約し、施設分離型ならではの話し合いのスタイルが確立できた。ネット環境の問題などもあるが、新しい生活様式や、GIGAスクール構想が進む中で、このような取組ができたことは、大きな一歩である。

平成 30 年度に実施したアンケートより、笠原中学校区の課題は、「自己肯定感の高揚」「学力の向上」であった。これらを、学校だけではなく、地域や家庭との連携協力の中での温かな人間関係づくりを通して、育んできた。3 年間の研究のまとめとして、教職員に「他者と協働しながら、主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒を育成することができたか」のアンケートから、「よくできた」「できた」が 3 校合わせて 95% である。今年度は、3 年間のまとめとしての研究発表会は開催できなかったが、その中でできることを教職員がアイデアを出し合って、テーマに向かって一丸となることができたのは、施設分離型小中一貫教育校としての取組の大きな成果である。(資料 6)

1 年次には、教職員の顔の見える関係づくり、2 年次には、学校間や地域とのつながり、リーダーの育成、3 年次は 9 年間の学びを意識した各校のリーダーの育成を目指してきた。この 3 年間の取組の積み重ねを通して、研究テーマ「他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒の育成」の実現を図ることができた。

8 研究の課題

- (1) 今後も、他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒の育成を目指し、小中一貫教育を継続していくための取組の見直しや検討を毎年実施していく。
- (2) 小小、小中での 1 人 1 台のタブレット端末を活用したオンライン授業へ向けての研修、実践を行っていく。
- (3) 学習プロジェクトでは、「9 年間で育成したい力」の系統表は、児童生徒の実態に合わせて、定期的に修正、改善していく。
- (4) 心プロジェクトでは、「3 校合同リーダー会議」を主体的・対話的で深い学びとなるようリモートと対面をうまく組み合わせて実施していく。
- (5) 体プロジェクトでは、教職員が体力テストの結果を分析し、児童生徒の体力向上への対策をもった上で、児童生徒が主体的に自分の克服トレーニングプランを立て、目標が達成できるようにしていく。

(6) 教職員協働プロジェクトでは、年度初めに顔合わせの部員会を開き、全職員での小中一貫教育への共通理解を図り、いつでも話し合える関係づくりをしていく。